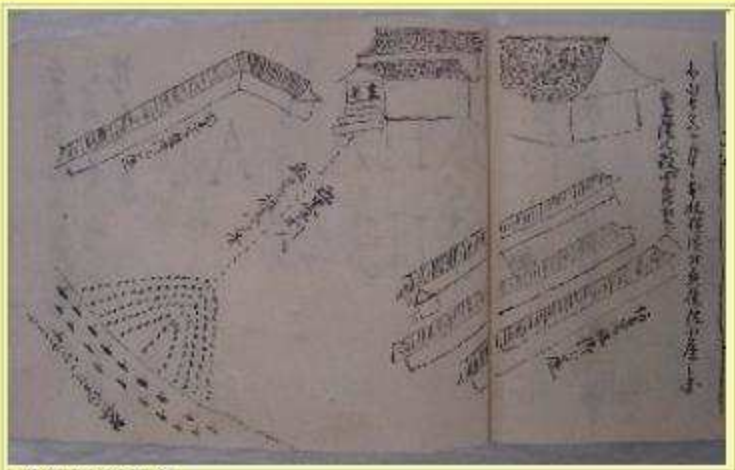
嘉永六年黒船図【八塩家1951】

【資料解説】
嘉永６（1853）年にペリーが浦賀に来航したときの様子を描いた絵を、さらに写したものです。炎を吹く煙突、「本来は水中で見えない」と前置きしながらあえて描いている外輪、蒸気船でありながら存在するマスト、船尾の国旗、左舷に並ぶ大砲など、生徒が気づくことがたくさんあります。このような写し、あるいは写しの写しは、瓦版などと同様にかなり広く出回っていました。幕府がその対応に苦心したり、警戒・警備を厳重にする一方で、庶民の黒船への興味が高かったことがうかがえます。

高輪御陣屋出張中記録【鈴木(庸)家5325】



【資料解説】
ペリー来航時、川越藩は相州沿岸の警備を命じられており、川越藩領比企郡宮前村（現川島町）の鈴木久兵衛は、道中武具方として走水（はしりみず）（現横須賀市）に出張しています。また、翌年の再来航の時には、賄方付として川越藩高輪（たかなわ）陣屋に詰めました。彼はこの間に自らの目で見た黒船の様子を記録しています。上の写真の中央には、「アメリカ人船ヨリ往来の図」とあり、接岸した小舟から多くのアメリカ人が整列して進んできた様子が読み取れます。